

## 1. 目的

- ・被災地にプカランガン（屋敷林）を整備する。
- ・村落に自然災害対策の必要性を説明し、関連する情報拠点となる「場」を整備する。

→ これを、被災集落に対する社会的復興支援として、位置づける。

## 2. 整備する環境

- 1) プカランガン
  - 有用植物等の種苗購入、播種・移植・植樹 etc.
- 2) あずまや
  - 情報拠点
- 3) ビオトープ
  - 人と自然の関係を修復させる場として

## 3. 段階的活動

- 1) 住民の協力を集める
  - 農園への遠足をてがかりに：  
われわれとかれらの間の信頼関係構築
- 2) 村（地域）を知る
  - ジオラマ作成をとおして、自然・生態環境面から村を再確認し、自然災害に関する正しい知識を住民が共有する
- 3) 情報拠点を作る
  - 「あずまや」に、こどもを中心としたひとびとがあつまる社会的拠点を作る



## 4. 支出が見込まれる活動

- 1) プカランガン整備関連
  - ・農園遠足費用
  - ・種苗購入、園芸道具、園芸用土購入
  - ・家屋瓦礫移動費 → 要検討？
- 2) あずまや
  - ・建築素材、規模を検討
  - ・耐震構造
- 3) ビオトープ
  - ・プカランガン整備に含まれるのでは？
- 4) その他
  - ・ガソリン代、飲食費、通信費

## 5. 8月までのスケジュール（資料2）

- 1) 測量・植生分布調査
  - 村の人へのフィードバック  
3-2) に対応
- 2) 農園遠足
  - 3-1)、2) に対応
- 3) プカランガン・ビオトープ整備開始
  - 活動日程  
メンバー

\*これらに平行して、震災情報拠点の整備を、日本のメンバーでおこなう。  
→ 必要な情報、設備、防災教育を普及するための手順等を準備。  
逐次、Gesikan に整備するかどうか、8月にまとめて整備するかどうか、すでにある Bambu House を活用するか、⇒ある程度、日本で議論を重ねる。